

令和4年11月1日

敬愛短大附属幼稚園だより 11月号

晴天の中で大運動会が開催され、園児たちは一生懸命に取り組みました。年長さんのリレーは圧巻で、多くの人に感動を与えてくれました。年中さんは「来年はみんながこれをするんだよ」という担任の先生のことばを聞いて一層真剣に応援していました。また、年少さんとたんぽぽ組さんも楽しそうに運動会をしている姿はほほえましく、久しぶりに天気を気にせずに開催できた大運動会でした。

10月22日には佐倉市山王にある短大のフェスティバル（大学の文化祭的な行事）に全園児が招待され、大切に育てられたサツマイモ掘りを体験してお土産をいただきました。短大も大雨やコロナの影響でここ数年はフェスティバルを開催することが困難でしたが、観察参加実習で顔なじみになった園児が参加することで、学生さんたちが来園して打ち合わせを行い、準備の段階からとても楽しみにしてくれました。このような交流ができるのは短大の附属であることの特典ですね。

また、10月29日（土）には、幼児教育研究会が開催されます。この公開研究会は短大の入試部長でもある大野教授を講師にお迎えし、市内の幼児教育に携わる先生や短大の学生が参加して、本園が3年間継続して研究してきた「夢中になって遊ぶ子どもを育む科学的環境～つくる・つかう・いかす～」について保育を公開して様々なご意見をいただく場となります。次年度からは「ことばの泉づくりプロジェクト」が始まり、相手を思いやる気持ちがことばとなって表現できるような子どもたちを育むにはどのようにしたら良いかについて研究を深めます。

5月に、はじめしゃちょーなども所属している大手のYouTube会社であるUUUM（ウーム）所属の家族YouTuber 2家族が園庭で運動会を開催し、併せてMV（ミュージックビデオ）として9/17に公開しました。公開から1ヵ月で88万回も再生され、1日2万回のペースで視聴が増加しています。協力として本園の名前も出ています。幼稚園のホームページからリンクさせてありますので視聴してみてください。

【現状で満足しない教育活動はどのように】

先に述べた短大の附属幼稚園としての研究活動は、より良い幼児教育を行うための基礎となります。定期的な公開研究会が開催されているのは千葉大学附属幼稚園と本園で、市外ではほとんど行われていません。市内の幼稚園では、千葉市幼稚園協会加盟園が順番で、各園持ち回りしながら保育の公開をしています。1園が本園のように継続して研究を行って毎年公開はしていません。

公開保育をするためには平素から研究テーマを決めて研究実践を行わないとできるものではなく、公開のための保育をしているのではなく、このような能力を育てたいという願いから明確な目標を定めて初めてできるものです。

本園の先生方は夏休み中だけでも5回の研修会を行い、短大とも連携して講師を招聘して年間で18回ほどの研修を園で実践しています。研修会では先生方がビデオカンファレンス（普段の保育をビデオに収録して互いに意見を交換する）を行って、この時の援助はこうしたらよいのではとか、こうするともっとこの子には良かったのではないかなど、常に互いを高めあっています。本年度の夏休み中の研修会のテーマを抜粋すると以下ようになります。

①「幼小の連携」②「外国籍及び外国にルーツを持つ子どもへの援助について」③「保育についてのビデオカンファレンス」④「敬愛短大の准教授による一学期の振り返り」⑤「目白大学人間子ども学科助教をお招きして「生きる力と幼児教育」について」等です。

また、当然のことなのですが、本園の先生方は日ごろから小学校1年生から始まる「生活科」や3年生から始まる「理科」の教科書を必ず見るようにしています。なぜなら、小学校で学ぶ内容を知らなくては幼稚園での教育は成り立たないからです。ここまでしている幼稚園でないと毎年の公開研究会にはつながりません。次年度からは「ことばの泉づくりプロジェクト」が始まりますので、国語の教科書も必要となるでしょう。

（園長 杉山清志）